

日山協自然保護ニューズレター (平成27年夏号)

発行日 平成27年8月24日 発行元 公益社団法人日本山岳協会自然保護委員会

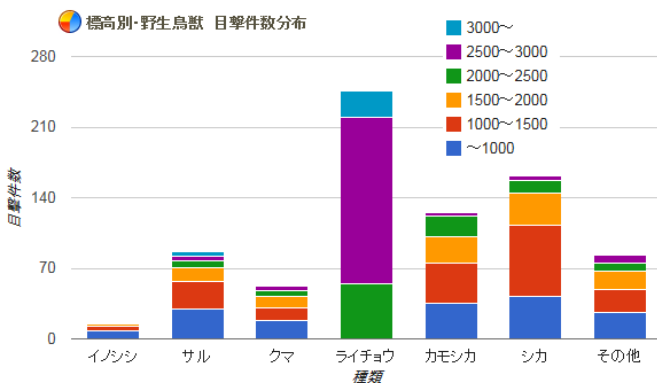
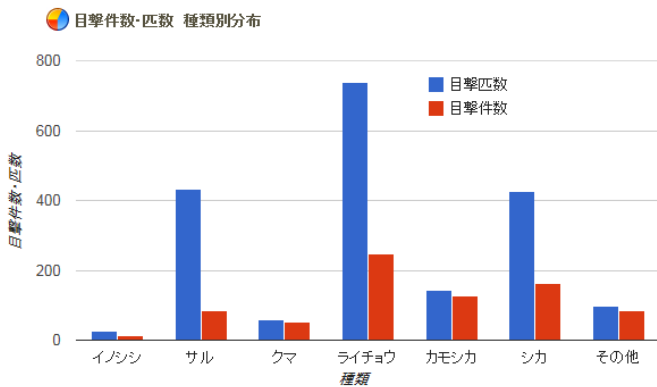
山の野生鳥獣目撃レポート

山の野生鳥獣目撃レポートは山岳団体自然環境連絡会（日本山岳協会、全国勤労者山岳連盟、JAC、HAT-J、都岳連、山のECHO、日本山岳ガイド協会）が運営するプロジェクトで、日本山岳協会がプロジェクト推進を担当しています。平成21年4月から継続してきている。

このプロジェクトは、今年で6年目を迎えた。このたび、公益信託 自然保護ボランティアファンドの助成の採択を受けることができ、この活動を更に促進してまいりたいと思います。よろしくお願いたします。

山の野生鳥獣目撃レポートの1年の活動

- 1) ホームページへのアクセス
(2014/5/1~2015/8/21 調査)
アクセス数：3,046件 閲覧ページ数：6,908件
アクセスの地域割合：東京30.3%、大阪10.4%、
神奈川7.3%、愛知5.7%、埼玉5.66%
- 2) レポート件数 (2014/3/17 現在)
累計：779件
平成26年度年間レポート数：98件
- 3) 集計結果
詳しくは：ホームページにて公開中です。



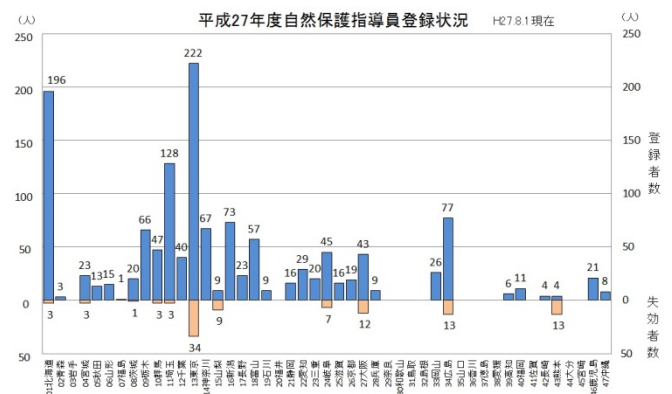
(山の野生鳥獣目撃レポートウェブページ URL)

www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/

平成27年度自然保護指導員登録状況

平成27年度自然保護指導員は5月20日現在で、新規76名、更新140名を受付した。また、本年度失効数が101名となり、新規登録数を差し引くとは、前年をより25名減となる。

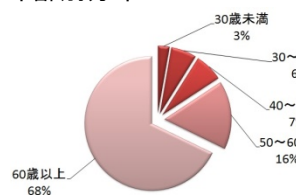
お手元の登録証をご確認いただき、登録を失効に気づかれた方におかれては、是非とも更新の手続きをお願いします。



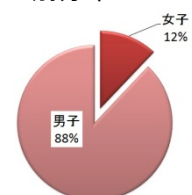
山に向かう心の意識調査アンケート

平成27年3月~6月の3ヶ月間、この調査を実施し、全国9地区25都道府県から147件もの回答を頂きました。

年齢別分布



別分布



アンケートの詳細については次のURLからpdfダウンロードをご覧ください。
www.jma-sangaku.or.jp/tozan/conservation/index.html#survey

自然保護常任研修会

平成 27 年 6 月 13 日(土)～14 日(日)、長野市戸隠の宿坊及び一夜山において題記研修会が開催され、30 名(常任 12 名、栃木・埼玉・神奈



川・長野の各山岳連盟自然保護委員など 18 名)が参加した。第一日目は宿坊にて講演 2 題と懇親会、第二日目は一夜山への巡検登山を行った。

第一日目は、「NPO みどりの市民の会」理事の田中守氏を講師に迎え、飯綱・戸隠に於ける携帯トイレ事情を、



次いで「宿坊・極意」主人であり、「戸隠神社 聚長(しゅうちょう)」の極意憲雄氏から戸隠信仰の歴史を、それぞれ一時間ほどのレクチャーを聴いた。概要は以下の通り。

(田中守氏講演概要)

早池峰で始まった携帯トイレ普及促進に教化を受け、長野市の予算の導入で、2005 年に、山頂手前の飯縄神社の先に携帯トイレブースの設置、麓の回収ボックスや、携帯トイレの販売店など、一連の仕組みを作り上げた。携帯トイレは利用者持ちであるが「お試し」用としてブース内に配備された。

当初は、携帯トイレの持ち去りとかブースの誤った利用、回収ボックス以外での途中投棄など問題が多発した。現在ではそのような事態は無くなって、使用済み携帯トイレの回収率が 9 割となった。

水場の水質検査は 10 年ほど続けているが、前より大腸菌の検出が減っており、頂上ブースの設置が途中の用便放置の減少につながったのではないかとと思われるとした。

バイオ技術を使ったハイテクトイレが各地山岳で稼働しているが、上手く稼働していることを聞かない。糞尿分離のトイレが効果ありと聞くが、大量の電力や、分離した尿の処理などに課題があるようだ。かといっ



ブース内部、棚にはお試しで用意された便袋が

て、携帯トイレが万能であるとも言えず、災害時などの実際例から、集中的排出される使用済み携帯トイレの焼却処理がパンク状態になったことがある。何れも決定的とは言えない課題を抱えながらの使用であることを配慮しておく必要がある。携帯トイレの廃棄には、やはり回収システムと連携が必要であることを認識すべきである。登山者には山頂のトイレブースから麓にある回収ボックスまで確実に持ち運び、回収ボックスからは地元行政や回収業者が処理をするといった棲み分けが明確にあるべきである。自宅まで持ち帰るにはかなりの無理がある。自宅に持ち帰った場合にしろ、「紙オムツ」という名目扱いで、一般ごみの扱いとはなっていない理解しておく必要がある。また、使用を熟知した人たちの間では洗濯にて再使用をしている例もある。

「携帯トイレを利用にあたっては、使い方や利用の仕方について正しい知識をそれぞれの利用者に期待する。登山者の方々には、トイレブースや回収ボックスの場所などを含め、入山時にはその山域の情報を事前に得おくべきである。」と結んだ。

(極意憲雄氏講演概要)

聚長というのは戸隠神社独特の呼び方で、一般に言う御師とか神官と同じ意味合いで、代々神明奉仕をその職としており、その傍ら全国から集まる信者に祈祷の取次ぎや、宿泊等の便宜を図ることを家業としている。山岳信仰のメッカだった頃「能海防」と名乗り、江戸時代初期に寺格昇進に伴い「徳善院」と改め、明治の廃仏毀釈以降は「極意」と俗姓を名乗り現在に到っていると言う。

戸隠山の開山は、天岩戸神話に由来し、時代は下って平安時代末には役行者にもつながる修験道の道場にもなったが、平安 2 宗(天台・真言)の争いや、戦国時代(上杉・武田)の騒乱にも巻き込まれ



祭壇を前に極意氏の講話が

壊滅的な打撃を受け、すっかり衰退してした。江戸時代に徳川家康の庇護を受け、修験道とは切り離され、農業、水の神としての性格が強まり、山中は門前町に整備されるなどして、関東・中部・北陸を中心に戸隠講も生まれ、広くその信仰を集めたと言う。明治時代に入ると神仏分離令や修験宗廃止令が出され、廃仏毀釈運動から、寺を分離して神社となり、宗僧は還俗して神官となったという。

第 2 日目、宿坊で「朝のお勤め」に全員参加。神前への祝詞に続いて般若心経が挙げられた。神仏混淆の名残が今もなお息づいている。奇妙な感覚を味わった時間となった。

そのあと、「一夜山」へ巡検登山に向かった。長野山協の委員から、地元「鬼無里」に伝わる鬼女の伝説や自然解説受け、往復約 3 時間の巡検登山を行った。鬼無里の里で「オヤキ」で昼食を摂った後解散となった。

常任委員からの報告

(小高委員からの報告)

8月20日開催の自然保護常任委員会で、小高委員から「南アルプス 光岳 静高平付近でバイケイソウの採食痕を目撃した。」との報告があった

中部森林管理局発行の「平成19年度南アルプスの保護林におけるシカ被害調査報告書・南アルプス南部の保護林内」には、高山植生がニホンジカの食圧で衰退し、毒性から嗜好性が低いバイケイソウやマルバダケブキの優占が目立っているとすると、採食等の報告はされていない。同委員の報告は、バイケイソウの頂茎部分に摘み取られたような食痕(シカの食痕)に加え、葉身が蛾(高山蛾とのこと)の幼虫に食べ尽くしていたとし、状況の急激な悪化を指摘したものの。

南アルプスの山梨県側では「トリカブト」を食べるシカもいる、という。生息の過密からくる食糧問題の劣化から、手当たり次第に植物を採食するように進化(順応)させた草食動物の悪食(あくじき=普段食べないものまで食べる。)に及ぶ生存競争は重大な環境問題。



一夜山山頂にて

第四回関東地区自然保護交流会

- ◇期 日: 平成27年10月31日(土)~11月1日(日)
1泊2日
- ◇場 所: 会瀬(材)青少年の家 茨城県日立市
- ◇主 管: 茨城県山岳連盟自然保護委員会
- ◇定 員: 40名
- ◇費 用: 10,000円/1人
(1泊2食宿泊代、懇親会、2日目の昼食)
- ◇:日 程:
第一日目 10月31日(土)
講演と活動発表
基調講演「日立鉾山の煙害と植生復活(仮題)」
講師 金澤信二
第二日目 11月1日(日)
日鉾記念館見学と神峰山登山

平成27年度自然公園指導員の推薦

環境省自然公園指導員の平成27年度推薦を環境省へ通知した。日本山岳協会は環境省自然公園の指導員の推薦団体となっており、平成28年4月1日~平成30年3月31日までの任期とする指導員の推薦を次とした。

(自然公園指導員推薦)

明田 通世、阿部 千賀雄、尾形 憲治、岡本 隆
小川 秀樹、小田 里子、門屋 峰雄、菅野 三知博
計良 寿彦、小池 寛喜、小島 和徳、小林 貞幸
齋藤 長作、杉本 三郎、須田 久男、関口 薫
瀬戸 朋義、谷輪重之、田村 保雄、角田 二三男
中野久彦、野口 勝広、服部 一雄、濱田 伸
福永 やす子、藤井 久一、増子 麗子、三田 治宣
宮崎 良平、百瀬 尚幸

平成26年度委嘱で自然公園指導員の業務を終了される方は次の通りです。

(勇退)	(辞退)	(推薦者変更)
小野 倫夫	松本 博	石倉 昭一
岩崎 繁夫	中川 裕	
廣田 博	小川 由樹	
小泉 俊夫		



茎頂部が欠損したバイケイソウ



蛾の幼虫が食いつくバイケイソウの葉身

※写真は小高委員提供のものを編集して使用

各岳連の自然保護活動から

(東京都山岳連盟)
都岳連自然保護委員会は6月7日、高尾山にてクリーンキャンペーンを実施した。100名超の参加を得て、初夏の緑を楽しみつつ、高尾山口駅から高尾山山頂までクリーン活動を行った。



平成27年度認定自然保護指導員

平成27年度認定の自然保護指導員は次の通りです。

01 北海

船見 紀子、林 清江、太田 弘子、須田 康仁、野田 耕市、神野 恵子、内藤 美佐雄

09 栃木

本間 睦美、手塚 幸子、糸井 建吉、輪島 繁、芳賀 真治

10 群馬

小池 寛喜

11 埼玉

藤田 弘子、榎本 佐知子、鈴木 小波、八木 真理子、山口 静子、渡辺 淑子、尾市作 保子、田中 恵子、野崎 陽子、氏原 佐和子、小暮 慶司、斎藤 達夫、石井 文明、山本 有次郎、大河原 裕雄、今井 茂子、寺田 康友

13 東京

嶋崎 禎子、福元 建三、藤井 富貴子、米田 正人、出江 俊夫、平野 裕也、西谷 可江、産本 陽平、樋津 勝弘、神津 昭夫、武田 耕治、森山 淳一、桑原 繁、内藤 圭、鈴木 典子、谷口 家良、小林 妙子、石井 徹、有明 弘貴、中村 正之、板橋 隆、北島 英明、栗田 裕之、小島 修司、小林 敏博、佐藤 進一、辻 勝彦、本田 勝、村越 百合子、渡辺 智義

14 神奈川

木村 聡一、望永 和美、八島 哲己、丸島 恵美子、橋元 次雄

15 山梨

小宮山 千彰、川島 万里子、中川 恵美子

16 新潟

大竹 佳夫

22 愛知

暮石 立次

24 岐阜

横山 英明、木股 修一、佐藤 康宏

26 京都

中村 聖

33 岡山

佐藤 綾子、佐々木 順栄

表彰関係

◆環境省自然環境局長表彰

自然公園指導員功労者として次の2名の方が表彰を受けられました。おめでとうございます。

服部 一雄 (青森県山岳連盟)

瀬戸 朋義 (埼玉県山岳連盟)

自然保護常任委員

自然保護委員会の体制が次の通りとなった。

委員長 松隈 豊

副委員長 西山 常芳

副委員長 堀江 伸子

事務局長 小高 令子

常任委員 田上 正敏

常任委員 手塚 福寿

常任委員 岩崎 繁夫

常任委員 増田 修

常任委員 濱田 伸

常任委員 廣田 博

常任委員 小島 和徳

常任委員 猪狩 ノブ

常任委員 紅葉 淳一

常任委員 湯浅 達男

常任委員 小林 貞幸

会議等

◆自然保護常任委員

平成27年6月14日

平成27年7月9日

平成27年8月20日

◆山岳団体自然環境連絡会

平成27年7月24日

予定

◆第39回自然保護委員総会

9月12～13日) 福島県

◆関東地区山岳連盟自然保護交流会

10月31日～11月1日 茨城

◆第四回自然保護指導員研修会

11月7日



編集後記 ニューズレター夏号が夏が終わる直前にやっと発刊。私的ですがこの夏の1月の入院ブランクの間にお掛けしたご不便をご容赦願います。(松)

発行元

公益社団 日本山岳協会 自然保護委員会

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館

☎ 03-3481-2396 📠 03-34891-2395

HP www.ima-sangaku.or.jp

Blog <http://mountprotection.sblo.jp/>

発行日 平成27年8月24日

発行番号 2015年夏号 (2015-08 pub1)